

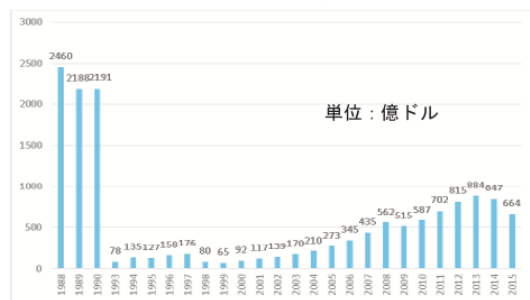
## 2016年大統領年次教書演説

津田 憂子

2016年12月1日、連邦議会に対するプーチン大統領の年次教書演説が行われました。年に一度の教書演説では、政治、経済、防衛、安全保障、科学技術、農業など、様々な分野におけるロシアの方向や戦略に関して大統領の見解を打ち出す場となっています。この教書演説で示された提案やビジョンには法的拘束力などありませんが、近い将来政策レベルで実現されることが通例となっています。直近の教書演説は最近の国際情勢を反映した内容でしたが、その中でも農産品と兵器の輸出に関する大統領の発言は興味深かったので、今回のこのテーマについて少し掘り下げて述べてみたいと思います。

演説の中でプーチン大統領は、農産品の輸出が最近兵器の輸出を上回っているとして、2015年の輸出額は農業が162億ドル、兵器が145億ドルであると指摘しています。かつてはウクライナが穀倉地帯としてソ連の農業を支えていましたが、ソ連崩壊後のロシアの農業生産は、経済不況の影響もあり急激に落ち込みました。しかし、そうした不振の時代から立ち直り、農業分野は現在成長を遂げています。プーチン大統領も2020年まで完全自給自足を目指し、ロシアが農業大国になることを掲げています。また最近では、西側諸国の制裁に対する対抗措置として、農作物や食料品のロシアへの輸入が禁止されていますが、代わりに政府は国内の農業関連企業の支援を積極的に行っており、そのおかげで農業生産が伸びているということです。政府による輸入代替政策の推進のおかげといえますね。

ロシア(ソ連)の国防予算の推移



出典：SIPRI Military Expenditure Database を元に筆者作成

一方、軍事分野はどうでしょうか。ロシア(ソ連)の防衛予算の推移を見てみると、ソ連崩壊により予算は激減しました。2015年のロシアの防衛予算は664億ドルでしたが、これはソ連時代の半分も満たしていません。

けれども、この664億ドルというのは、米国(5,960億ドル)、中国(2,148億ドル)、サウジアラビア(872億ドル)に次いで世界第4位の規模です。昔と比べて規模は小さくなりましたがそれでもロシアはまだ世界有数の軍事大国といえますね。

兵器輸出の世界シェアを見てみますと、ロシアは米国に次ぐ世界第2位の地位を占め、兵器輸出大国としての存在感を示しています。2010～2014年のロシアの兵器輸出量は、2005～2009年と比べて37%増加しています。2010～2014年のロシアの兵器輸出取引では、インドが39%を占め、次いで2位が中国(11%)、3位がアルジェリア(8%)となっていて、これら3か国で全体の約6割を占めることになります。

兵器輸出の世界シェアトップ4か国

| 順位 | 国名  | 世界シェア      |            |
|----|-----|------------|------------|
|    |     | 2010-2014年 | 2005-2009年 |
| 1  | 米国  | 31%        | 29%        |
| 2  | ロシア | 27%        | 22%        |
| 3  | 中国  | 5%         | 3%         |
| 4  | ドイツ | 5%         | 11%        |

出典：SIPRI Fact Sheet「Trends in International Arms Transfer, 2014」を元に筆者作成

このように、防衛分野の予算額は大幅に減少しましたが、現在でもロシアの戦闘機やミサイル等の軍事兵器は開発・製造・販売において世界の市場で精彩を放っています。この背景の一つとして考えられるのは、世の中の情勢が変化するなかでも、国の存立は軍事力であり、軍事力を支える軍事関連技術開発が根幹にあるという強い信念が、帝政ロシア、ソ連、その後の新生ロシアにおいても延々と受け継がれてきたことによるからでしょう。

政治や外交、経済のニュースが比較的多い昨今のロシアですが、今回のように農業や軍事に注目することも興味深い視座を与えてくれます。

(JST 研究開発戦略センター・フェロー)